令和　　元　　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0590400230		
法人名	有限会社　祐康		
事業所名	グループホーム鮎乃里		
所在地	秋田県大館市櫃崎字大道下27―1		
自己評価作成日	令和元年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和元年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム鮎乃里 ⇒ あゆのさと ⇒ あかるく・ゆったり・のんびり・ささえあう・ともに

広く明るいホール内の移動が利用者様の筋力低下の防止となり、その人らしさを尊重し、安心して穏やかに暮らせるように支援、外食レクでの外出や行事を通じて日々の生活に喜びや気分転換、季節感を味わって頂けるように力をいれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

稲の成長と共に四季を感じられる田園風景が広がる中に事業所がある。雪深いこの地域の冬は、室内で過ごす時間が長く、下肢の機能低下が進行しないようにと事業所のホールは、運動ができるほどの広々とした空間である。利用者それぞれの能力に応じて、役割としての生活行為（金銭管理、掃除、洗濯たたみ等）を日常生活において実践できるように支援している。毎月の外食レクは力を入れ取り組んでいる活動である。利用者あっての事業所なので、より良いサービスを提供したいと管理者は様々な研修に参加し、常に向上心を持って学習している。また、職員間の連携を深め、豊かな利用者の暮らしを支えようと前向きに取り組む姿勢がある。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は認知症ケアの道しるべと捉え、日々のケアの中でも、目につく所にあり、ケアに取り組んでいる	1日の仕事に入る前に、理念を確認できるように、玄関入口の目につく場所に掲示し、常に意識しながらケアに取り組んでいる。理念について話し合う場を設けていきたいと前向きな言葉が管理者から聞かれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は田んぼと会社なので、住んでる人は居ないが、時々散歩で田んぼの方とお話するだけなので、地区の新年会(管理者)に参加し、文化祭や行事等へ参加されている	事業所の立地場所に地域住民が暮らす民家はないため、地域交流が難しい状況にあるが、公民館長が「けやき便り」を毎月持参し、地域内の行事や活動等を紹介してくれている。敬老会では劇団が来てくれたり、ひまわりの種を植えるイベントに参加したりと地域の方々と交流する機会を持てるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	民生委員の方たちと行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催し意見交換を行い、利用者様の家族の要望により行事を土曜日に行っている	入居者数や活動・出来事、事故等の状況を報告している。参加メンバーの家族から、感染対策による面会制限についての意見が出たことを機に、今年度はマスク着用で家族ルームで面会を可能とした。取り上げられた事項に解決できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を有効活用し、介護保険係の担当者と連絡をとっている。 尚 分からない事等は、介護保険係へ直接出向き、係長や担当者から返答をもらっている	大館市介護保険係や地域包括支援センター職員が運営推進会議メンバーとなっているため、事業所の実情を理解している。処遇改善加算について、不明な点を直接介護保険係に聞く等、連絡を密にとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための方針を基に、月に一度の身体拘束廃止委員会を行い、尚且つ研修をしケアに取り組んでいる	無関心にならないように、職員全員が身体拘束廃止委員メンバーとなっている。会議へは職員が順番で出席している。身体拘束廃止委員会を毎月開催し、身体拘束の対象となる具体的行為の実施の有無を確認している。	1月に身体拘束についての研修予定となっている。引き続き、定期的な研修の開催を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者様からの声を聞き、職員一人ひとりの言動に注意をし、何かあればその都度指導している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会を行い、必要時には関係者とも話し合いをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項の説明も、利用者様や家族様にわかりやすいように説明するように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への電話連絡時・面会時や運営推進会議に要望等を聞き、改善、実施している	情報提供書を毎月家族へ郵送している。家族から疑問に思ったことや分からないことは、電話にて問い合わせがあり、対応している。また面会や利用料支払い時にも意見をいただいている。家族からの意見は申し送りノートにて職員間で共有している。	行事に参加したいという家族の要望に応えるべく、利用者と過ごす時間を共有できるような取り組みに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて面談をし、意見を聞き改善出来るように努めている。入浴では、一般浴での介助が大変になり、中間浴も検討し「デモ機」を使用したが、利用者様が怖がり、シャワーキャリーを購入し支援している	管理者はどのような場面でも、職員が意見を表出できるような姿勢を心掛けている。管理者不在の場合は、職員が机にメモを置く等、日常的に意見を言いやすい状況にある。年に1回でも食事をしながら懇談し、チームワークを深められればと管理者は考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績等により評価、昇給している。職員に合わせた勤務形態や勤務希望を月に5回とっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールに基づき施設内研修を実施 職員の知識技術等に合わせた外部研修への参加をして頂いている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見の交換をしている 薬局の方に来てもらい勉強会を実施している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安全な歩行方法や耳の聞こえにくい利用者様でも楽しめるよう、ジェスチャーや筆談等をし支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ちょっとしたことでも、家族様に連絡し報告をするようにし、面会時にも要望等を聞き、改善、実施している		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを大切に、安心して暮らせるよう、生活のパートナーとして支え、支援している		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊の機会を設け、家族様と一緒の時間を過ごせるように心掛けている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方がいつでも面会に来れるように家族様にお願いし確認をししている。今まで利用していた郵便局や化粧品屋さんに行っている。医療機関は入居前から通院していたところに通院している	近所の人や同級生が面会に来ている。職員が把握できていない面会者に対しては、個人情報の観点から家族に確認をしている。昔から利用している郵便局に職員と出かけ、利用料のお金をおろし、ホームの窓口で支払いをする支援を行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮や集まりやすいホールづくりを心がけている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別養護老人ホームや介護療養型医療施設入所の相談があった際も代筆で入所申込書を作成している 入院時等はこまめに面会、家族様との連絡をとっている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様にとって良い事、支援側の都合にならないよう、日々の生活の中、会話・表情・行動など、話をしたりして、気付きなど職員間で共有しケアを常に考えている	何気ない会話の中で、言葉のニュアンスや顔の表情から思いを汲み取るようにしている。思いの表出が難しい方には、利用者の視点に立って、思いの把握に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時になじみの物を持ってきてもらうようにしている。食事準備、片づけ、お皿洗い・拭き、洗濯物干し・たたみ等を行っている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状維持ができるように、いろいろな方法をためしている		
25	（10）	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時等に利用者様や家族様と話しい合い、職員は書式にて意見を出し合っている	居室担当者が作成するモニタリングと申し送りノート、介護記録を確認し、計画書を作成している。今後は介護ソフトを導入したので、情報管理が容易となり計画書作成に役立つ。春からは24時間シートを活用予定で、利用者のより良いケアに反映していきたいと伺った。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜間の様子をできるだけ詳しく記録するようにしている		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活を聞きシートにて活用して把握するようにしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時前からのかかりつけ医院は変更せず、かかりつけ薬局は家族様に了解をもらい変更し、薬局を一箇所にすることで関係が築けている。 家族へは月に1回病院受診報告を「書面」にて行い、変更があった際は、その都度電話にて報告している	入居前からのかかりつけ医を変更せず、職員が受診介助を行っている。利用者毎の受診記録表に受診内容、結果を記録し、職員間で情報共有している。また家族には情報提供書とあわせ病院受診報告書を送付している。提携している薬局と同意書を交わし、内服の一括管理をしている。服薬相談をしたり、服薬の仕方を指導してもらう等連携を図っている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時や電話にて病院の看護師に相談をしたり、ショートステイの看護師にも相談している		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は連携室をとおして情報の共有を行っている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来ること、出来ないことを家族に説明し、医療的ケアが必要な場合は家族と相談し対応できる、施設への申し込み等を行っている	入居申し込み時に重度化した場合の対応について、家族からの質問等を受けながら、説明している。通院しながら状態に応じて、家族と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市役所の出前講座で、消防署の救急隊員より救命講習をしてもらい、初期対応を出来るようにしている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	指定の避難所への移動訓練はショートステイと合同で行っている。尚 非常食は3日分を備蓄し、停電の際は発電機が稼働出来るようにしている	年2回の避難訓練のほか、隣接するショートスティと合同で水害想定訓練として、避難場所の公民館へ移動訓練をしている。非常食3日分、ストーブ12台、発電機が用意されている。避難通路の一部が砂利で、移動困難なことから、改修予定と伺った。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場に立ちながら、入浴の際同性介助を希望される方には、同性介助にて対応し、一人ひとりのプライバシーを配慮しながら、支援している	排泄誘導に拒否がみられた場合は時間をおいて、声かけや皮膚の掻痒感を説明し、自尊心に配慮しながら対応している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定力に応じ、選択方式の方法をとっている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等も気が進まないときは、次の日にしたりしている。受診も気が進まない時は病院へ説明し、職員のみで対応している		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に鏡を置き衣類等のコーディネートを一緒にしている		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回の外食や行事食、もやしのひげ取りや片付けを一緒にしている	メニューは決めずに食べたい物を利用者に聞きながら食事作りをしている。茶碗洗いや食器拭きを日々の役割として利用者が行っている。誕生日にはホイップクリームや果物を利用者が飾りつける。ホイップの絞りに直接口をつけた人がいたりと、和やかな雰囲気が伝わってきた。12月からは調理の職員が入職するため、その分介護員も利用者と関わる時間が増える予定であるとのこと。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日5回の水分補給や一人ひとりに合わせた食事形態の量を提供している		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は洗面所で口腔ケアをしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用し排泄パターンを把握し、声がけを行っている	排泄チェック表で失禁状況を把握している。赤の色が大好きな利用者の特徴を活かして、リハビリパンツから赤の布パンツに移行できた事例があった。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトとオリゴ糖を提供し、おやつ前には体操をしている		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日と時間は決められているが、気が進まない時や、体調の悪いときは別の日にしている。ゆっくり入浴してもらえるように、入浴時間を長めにとっている	個別入浴で対応しているが、利用者同士で一緒に入浴をしたいと希望がある時は、脱衣室で一緒に過ごせるような配慮をしている。入浴拒否の場合は時間をおいたり、別な日で対応する等、意向に沿いながら入浴支援を行っている。洗髪を拒否される方にはドライシャンプーで対応している。浴槽の出入りがしやすいように滑り止めマットを購入予定である。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息中は無理に起こしたりせず、過ごしてもらっている		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬一覧表等を作成し、全職員がわかるようにしている。何かあれば薬剤師に相談している		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗い、茶碗拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ等を役割分担している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、月に1回外食レクや花見・紅葉ドライブを行っている	事業所周辺を散歩したり、外出レクとして毎月道の駅に外出支援を行っている。利用者から大館のお祭りに行きたいと希望があったが、暑い日だったので、出かけることが出来ず、お祭りのDVDを鑑賞していただいた。米寿のお祝いで家族と一泊旅行に出かける方もいたりと家族の協力もあり、外出することが出来ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、お金を渡し買い物の支援をしたいと思っている		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員がかけて利用者様につなぐようにしている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の広いホールを自由に過ごせる場所として確保し、季節に合わせた飾りつけをしている	利用者が集うホールは、天井が高く広々とし、開放感のある空間となっている。雪深いこの地域で、屋外に出られなくなる冬の運動不足解消のため、ホールを広く設計したと伺った。すごろく形式で、楽しみながら歩行の機会を設け、下肢筋力の維持に努めている。季節に合わせた装飾は利用者と共に飾りつけを行っているとのこと。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールの中で一人で過ごせる場所と利用者様同士で過ごせる場所を作っている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンス以外は今まで自宅で使用していた物を持って来てもらったり、お部屋のレイアウトも使いやすいように、一人ひとりに合わせている	TV、使い慣れた椅子、ぬいぐるみ、趣味の写真等、思い思いの使い慣れたものを持ち込んでいる。自身の居室をハンディモップで掃除する方もいる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールが広いこともあり、居室の入口に目印をつける等の工夫をしている		